

戸森の線刻画

帆船と矢は、秋利神川の近くにある「戸森の線刻画」に繰り返し表れるモチーフです。これらの三つの岩に刻まれた画は、徳之島の五か所で発見された類似の画の中で最も詳細に描かれているものです。奄美群島全域で、他に線刻画は発見されていません。線刻画の正確な年代や目的、意味はよく分かっていません。江戸時代(1603–1867)初期に描かれたと考えられており、その存在は 1895 年に書かれた徳之島についての書籍に記録されています。

石の日誌?

一つ目から三つ目の岩にかけて、線刻画は次第に簡略化し、また線は細くなっています。岩の二つは 1923 年に地元の人々によって発見されました。一つ目は深い線で刻まれており、9 艘の船と 48 本の矢が描かれています。描かれている船の帆の様式は江戸時代に使われていたもので、この画がいつ彫られたのかについての大きなヒントとなりました。三種の矢が描かれており、彫った人が弓に相当詳しくたことを示唆しています。一説には、これらの岩は地元の人によって、珍しい場所から船が着いたなど、その日の重大な出来事を記録するために彫られたということです。

屋形船

二つ目の岩は一つ目より浅い線でより詳細に彫られ、10 艘の船と 9 本の矢が描かれています。画には將軍の遊覧船である屋形船のように見えるものも含まれています。屋形船の漢字は house-shaped-boat という意味で、このような船は平安時代(794–1185)から使われています。三つ目の岩は、2012 年の現地調査の最中に、地面に埋もれていたのが発見されました。この岩には、他の二つの岩と同様の 6 艘の船と 8 本の矢が描かれています。この岩には変わった罫線のような模様も刻まれており、その模様が持つ意味については現在も議論が続いています。専門家は、三つ目の岩の線刻の一部は異なった時期に彫られた可能性があると考えています。

学術的関心

2016 年にこれらの線刻画についてのシンポジウムがこの島で開催され、線刻画に使われた道具や手法、誰が描いたのか、そしてこれらの画は何を意味しているのかが検討されました。古墳（千年以上前に建てられた鍵穴の形をした墓陵）など日本の他の場所でも類似の画が見つかっています。戸森の線刻画は鹿児島県指定文化財です。

行き方

戸森の線刻画は西阿木名地区にあり、空港から車で約 25 分、徳之島町からは約 30 分です。無料の駐車場が利用できますが、近くに施設や売店はありません。県道 83 号線の下を通る曲がりくねった道路にはあまり標識がないのでたどり着くのが難しいかもしれません。分からないことがあれば、天城町教育委員会にお問い合わせください。